



1 学習に取り組んでいる主な分野

| | | | |
|--|---|----------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 生物多様性 | <input type="checkbox"/> 海洋 | <input type="checkbox"/> 防災・減災 | 気候変動 |
| <input type="checkbox"/> エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> 環境 | <input type="checkbox"/> 文化多様性 | <input type="checkbox"/> 世界遺産・文化財 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 国際理解 | <input type="checkbox"/> 平和 | <input type="checkbox"/> 人権 | <input type="checkbox"/> ジェンダー平等 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 福祉 | <input checked="" type="checkbox"/> 生産と消費 | <input type="checkbox"/> その他 () | |

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校では、生活科・総合的な学習の時間を中心に、テーマを「環境」「福祉」「国際理解教育」に重点化してESDに取り組んできた。地域とのつながりを意識し、地域との交流を柱とした単元を設定し、資料等から現在の状況を知り、課題や解決の方策を協働して多面的・客観的に考える学習を進めた。その過程や結果を発信したり、対象に働きかけたりしたことを振り返り、自己の伸びを感じ得ることができるようにした。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ 「環境」にかかわる学習

「環境について考え発信しよう」の学習で、堂面川の上流・中流・下流の様子から、水のごとと生活の関係を調べた。まず、GTをお招きし、パックテストを用いて、実際の川の水の汚染状況を調べた。その後、汚染の原因について図書資料やインターネットを活用して調べてまとめた。

環境問題について調べることで、川の水の汚れが自分たちの生活と関係していることに気づき、各自ができることや実践することを考えることができ、地域の環境保全に貢献したいという思いをもたせることができた。学習のまとめとして自分が調べて分かったことやこれからの取組をパンフレットにまとめて図書室に置いた。



○ 「郷土・国際理解」にかかわる活動

国際理解教育推進事業を活用し、諸外国の正月を中心とした文化風習についての理解を深める学習をした。GT（中国出身）をお招きし、中国の春節のことやから交流を行っている大同市のこと、第18小学校のことを教えて頂いた。そして、学んだことを生かし、中国の友達が喜ぶ贈り物を作るという次の活動に進んだ。児童が考えた贈り物は、大牟田発祥であるカルタを中国語に翻訳して製作することだった。贈り物に関しては、春節に合わせて全学年作成し発送することができた。



○ 「福祉」に係わる活動

体が不自由な人の生活について調べる課題を設定し学習を行った。体験活動としては、車椅子に乗ったり、サポーターをつけてお年寄りの体験をしたりする活動を行った。また、体の不自由な方をGTでお招きして生活の様子を教え頂いたり、質問したりして理解を深めることができた。この学習を通して認識を広げ、体が不自由な方が困っていたら声をかけるなど、これからどのように関わっていくのかを考え、生活に生かすことへの意識をもつことができた。



3 今後の活動計画

令和6年度は、ESDを柱として、重点目標の「平原が好きな子どもの育成」に取り組んでいきたい。そのために、

1. 今年度の実践の評価をもとに見直しを行う。その際、さらにSDGs3と11の目標を意識して見直しを行っていく。学習の目標を明確にし、特に「2 持続可能な開発および持続可能なライフスタイル」についての学習をより充実させる。
2. 子どもが平原を好きになり、よりよいまちづくりに参画・貢献する力や態度を身につけるために平原の身近な「ひと・もの・こと」を活動計画の中に最大限位置づける。
3. 国際理解教育、異文化理解の学習について、中国大同市第18小学校と交流を続けている。現在は、中国の春節を祝うメッセージカード等を送ったり、オンライン交流をしたりして友好を深めている。今後は、オンライン交流の内容をさらに充実させたり、学校紹介のDVDを作成したりするなどの工夫をしていきたい。